

プレス発表資料

平成29年12月4日
国立研究開発法人 防災科学技術研究所

「強震モニタアプリ」ベータテストのため 先着3,000名のモニターを募集

国立研究開発法人 防災科学技術研究所（略称：防災科研、理事長：林春男）は、これまで防災科研が公開してきた「強震モニタ※1」のスマートフォンアプリ版である「強震モニタアプリ」のベータテストに参加していただけるモニターを、iOSとAndroidでそれぞれ先着1500名ずつ募集いたします。「強震モニタアプリ」は全国に設置した強震計※2（強い揺れを測ることのできる地震計）で観測される日本列島の「今」の揺れと、緊急地震速報※3による予測情報を重ねて表示します。また地震時だけでなく平時に利活用していただくことも想定した機能も追加しています。ベータテストではアプリを実際に利用して頂き、利用の方法や使い勝手及びニーズ等を調査することを目的に、平成29年12月4日から平成30年1月31日まで実施します（応募期間は平成29年12月4日から）。参加費は無料※4です。

なお、本ベータテストは、総合科学技術・イノベーション会議が推進する戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の課題「レジリエントな防災・減災機能の強化」の一環として実施するものです。

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会

「強震モニタアプリ」ベータテストのため 先着 3,000 名のモニターを募集

1. 概要

国立研究開発法人 防災科学技術研究所（以下、防災科研、理事長：林春男）では、これまで防災科研が公開してきた「強震モニタ（※1）」のスマートフォンアプリ版である「強震モニタアプリ」を開発しました。

このアプリは、強震モニタが提供する全国に設置した強震計（強い揺れを測ることのできる地震計※2）で観測される日本列島の「今」の揺れと、緊急地震速報（※3）による予測の情報をスマートフォンなどで閲覧できるように開発したものです。さらに平時に利活用していただくことも想定し、防災科研の地震ハザードステーション（J-SHIS）から提供されている地すべり情報や活断層マップの表示、非常時持ち出し物のチェックリスト、防災クイズ、防災マンガ、地震津波シミュレーションゲームなどの機能も追加しています。将来的には、防災科研が運用する日本海溝海底地震観測網（S-net）の情報提供も踏まえて開発を進めています。

今回、この「強震モニタアプリ」を実際に利用して頂き、利用の方法や使い勝手、ニーズ等を調査することを目的としたベータテストを平成 29 年 12 月 4 日より開始します。ベータテストの開始にあたり、ベータテストに参加し「強震モニタアプリ」の利用を希望される方を公募します（応募順に iOS/Android それぞれ先着 1500 名、参加費無料※4）。

本ベータテストを通じて、本アプリの検証と皆様からのご要望などをいただき、国民の皆様の安心安全な社会を実現するための一助となるような研究開発に活かしてゆきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、本社会実験は、総合科学技術・イノベーション会議が推進する戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の課題「レジリエントな防災・減災機能の強化」（※5）の一環として実施するものです。

2. モニター募集

(1) 応募条件

モニター対象者はスマートフォンの利用者とし、対象とするスマートフォンの OS は iOS と Android とさせていただきます。なお、登録頂いたモニターの方には、ベータテスト期間終了後、アプリから表示される利用者アンケートへのご協力をお願いいたします。この利用者アンケートにご協力いただくことで、アプリのテスト利用を平成 30 年 3 月 31 日まで延長することができます。

(2) 応募期間及び人数

応募期間：平成 29 年 12 月 4 日から

人数：iOS と Android で各先着 1500 名

ベータテスト期間：平成 29 年 12 月 4 日から平成 30 年 1 月 31 日まで

（利用者アンケートにご回答いただいた際には、平成 30 年 3 月 31 日まで延長）

(3) 利用登録

各 OS によって登録方法・設定方法が異なるため、以下の資料をご覧ください。

① iOS 版の登録方法とインストール、設定方法

～アプリのインストールと地震通知設定までの手順～



① アプリのインストール前の準備



sip13_app_touroku@rcsc.co.jp

このアプリはiOS **9.0以上**でのみ動作します。
アプリをインストールできるようにするために、まずお使いのスマートフォンで次の作業を行ってください。

- (1) App Storeから「Test Flight」を検索し、インストールしてください。
- (2) メールセキュリティを設定している場合 no_reply@email.apple.com から届くメールを受信出来るようにセキュリティを解除してください。
- (3) **Apple IDでご利用のメールアドレス**より「sip13_app_touroku@rcsc.co.jp」宛てに空メールを送ってください(QRコードを読み取ると、上記メールアドレスが自動で読み込まれます)。

※Apple IDでご利用のメールアドレスは、端末の設定→iTunes StoreとApp Storeで確認できます。
※お申し込みは**先着1,500名様**までです。

② アプリのダウンロードとインストール



- (1) Test Flight(no_reply@email.apple.com) からメールが届きます。「View in TestFlight」を選択してください。
- (2) TestFlightが自動的に起動します。「INSTALL」を選択し、アプリをインストールします。
- (3) インストール後、地震モニタを起動ください。

③ プッシュ通知を受ける設定



- (1) 初回アプリ起動時に表示される、位置情報の送信許可の利用許可を求めるダイアログで【許可】を押して下さい。
- (2) 初回アプリ起動時に表示される、通知の利用許可を求めるダイアログで【許可】を押して下さい。
- (3) アプリ起動後、メニューから「設定」を開きます。
- (4) 「通知震度」で通知される震度を設定します。
- (5) アプリ起動中の通知受信時に「報知音」・「バイブレーション」で知らせる場合はそれぞれチェックをONにします。

※アプリ起動していない場合の通知受信時は、上記設定に関わらず非マナーモード時は通知音、マナーモード時はバイブレーションでお知らせします。

④ 通知を受信



- (1) 地震が発生することで通知を受け取ります。通知内容を押します。
- (2) アプリが立ち上がり、震源地や各地の震度、P波S波などの情報がリアルタイムに更新されます。

※地震発生時は、あわてず、まず身の安全を確保しましょう。

②Android 版の登録方法とインストール、設定方法

～アプリのインストールと地震通知設定までの手順～

① アプリのインストール前の準備

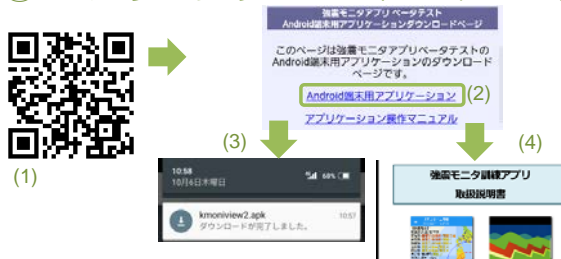


このアプリはAndroid **5.0以上**でのみ動作します。アプリをインストールできるようにするために、まずお使いのスマートフォンで次の設定を行ってください。

- (1) 「設定」アプリを開きます。
- (2) 画面をスクロールして、「ロックとセキュリティ」(Android 5.0の場合は「セキュリティ」)を開きます。
- (3) 画面をスクロールして、「提供元不明のアプリ」のチェックをONにしてください。

※この画面はAndroid 6.0のもので、端末種類により画面は多少異なります。

② アプリのダウンロードとインストール




- (1) スマートフォンで左のQRコードまたはブラウザから下記のアドレスにアクセスし、アプリのダウンロードページを開きます。
<http://gcm.qtmoni.bosai.go.jp/test2017/>
- (2) 【Android端末用アプリケーション】をタップすると、ダウンロードが始まります。
- (3) ダウンロードが完了したら、kmoniview2.apkをタップして、アプリをインストールしてください。
- (4) アプリの詳しい説明は、このページのマニュアルをご覧ください。

※ダウンロードは先着1,500名様までです。

③ プッシュ通知を受ける設定



- (1) アプリを起動します。
- (2) Android6.0以上では、アプリの位置情報へのアクセスを許可してよいかどうかの確認ダイアログが表示されます。【許可】を選択してください。
- (3) 左上の  アイコンをタップして表示されるメニューから、「設定」を開きます。
- (4) 「プッシュ通知設定」のチェックをONにします。
- (5) 「アイコン表示」のチェックをONにすると、プッシュ通知の状態を常に表示しておくことができます。
- (6) 「通知震度」で通知される震度を設定します。
- (7) 通知受信時に「報知音」・「バイブレーション」で知らせる場合はそれぞれチェックをONにします。

④ 通知を受信



- (1) 地震が発生することで通知を受け取ります。詳細表示ボタンを押します。
- (2) アプリが立ち上がり、震源地や各地の震度、P波S波などの情報がリアルタイムに更新されます。

※地震発生時は、あわてずに、まず身の安全を確保しましょう。

4. 参考資料

※1 「強震モニタ」:

全国の強震観測網の地震計で観測した今現在の揺れを、そのままに近いかたちで配信しているWebサービスです。揺れの大きさに応じた色のついた点を地図上に表示し、定期的に更新することで動画として地震の揺れの伝わる様子が直感的に理解できるように工夫されています。より詳しくは、以下のプレスリリース（平成23年6月21日）をご参照下さい。

(http://www.bosai.go.jp/press/2011/pdf/20110621_01.pdf)

※2 「強震計」:

非常に強い地面の揺れまで振り切れることなく計測が可能な地震計であり、震度計などがこの仲間に含まれます。防災科研では、2つの強震観測網（K-NET および KiK-net）を設置・運用しています。

・ K-NET の概要 : K-NET (Kyoshin Net : 全国強震観測網) は防災科研が運用する全国を約 20km 間隔で均質に覆う 1,000 箇所以上の強震観測施設からなる強震観測網であり、1996 年 (平成 8 年) 6 月から運用を開始しています。地震被害に直接結びつく地表の強震動を均質な観測条件で記録するために、各観測施設は、一部の例外を除き統一した規格で建設され、自由地盤上 (地表) に強震計が設置されています。震度情報ネットワークの一部に組み入れられており、観測された震度は気象庁に送られ、国や自治体の適切な初動体制の確立等に活用されるほか、テレビ等で地震直後に報道されます。また、蓄積された強震記録はデータベース化され、地震防災等の様々な実務や研究に役立てることが出来ます。

・ KiK-net の概要 : KiK-net (Kiban-Kyoshin Network : 基盤強震観測網) は、全国にわたる総合的な地震防災対策を推進するために、政府の地震調査研究推進本部が推進している「地震に関する基盤的調査観測計画」の一環として、防災科研が高感度地震観測網 (Hi-net) と共に整備した強震観測網です。KiK-net の観測施設は、全国約 700 箇所に配置され、各観測施設には観測用の井戸 (観測井) が掘削されており、地表と地中 (井戸底) の 2 箇所に強震計が設置されているのが特徴です。

※3 「緊急地震速報」:

地震の発生直後に、震源に近い地震計でとらえた観測データを解析して震源や地震の規模 (マグニチュード) を直ちに推定し、これに基づいて各地での主要動の到達時刻や震度を予測し、可能な限り素早く知らせる地震動の予報・警報で、平成 19 年 10 月 1 日より気象庁から一般への提供が開始されています。緊急地震速報には気象庁の観測網データの他に、防災科研の高感度地震観測網のデータや開発した即時震源決定手法が用いられています。より詳しくは、下記の気象庁の解説の Web サイトをご参照下さい。

[\(http://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/\)](http://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/)

※4 「参加費無料」:

提供実験には無料で参加できます。但し、配信データを受信するためのインターネット通信費等の費用は、参加者の負担となります。

※5 総合科学技術・イノベーション会議が推進する戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の課題「レジリエントな防災・減災機能の強化」

<http://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/sip/>

総合科学技術・イノベーション会議が自らの司令塔機能を発揮して、府省の枠や旧来の分野の枠を超えたマネジメントに主導的な役割を果たすことを通じて、科学技術イノベーションを実現するために新たに創設するプログラムの一課題です。